（様式）

令和７年度　牧田小学校学校経営の改革方針

記述項目	記述内容
１めざす 学校像	「人とふれあい　共に学び　共に育つ子の育成」 ・　一人ひとりの学力を保障する学校 ・　ちがいを認め、共に高め合う学校 ・　生き生きと活動する子を育てる学校 ・　地域と共に歩む学校
２経営方針	☆一人ひとりの学力を保障する教育活動を推進する。 ☆自他の違いを認め、共に生きる力を育成する。 ☆健康安全教育を進め、心身共に健やかな子を育成する。 ☆保幼小中の連携を深め、一貫した教育活動の取組を推進する。 ☆すべての教育活動を通して非認知能力を育む。 ☆働きやすい職場環境を構築する。
３達成方策	**１　学力保障** （１）教職員の授業力の向上を目指す。 ・学習指導要領、全国学力調査等の結果に基づき、「授業力 UP5★」を意識し、つけたい力を明確にした授業を推進する。 ・年間を通して指導主事等を招聘し、１人１台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現する複線型授業を推進する。 （２）読書活動を充実し、読書習慣の確立を図る。 ・学校図書館利用を促進する。 （３）基礎基本の定着を図る。 ・「よむ YOMU ワークシート」や「学 Viva セット」を活用する。 ・効果的な家庭学習を進める。 ・機会をとらえて補充学習を行う。 （４）日本語指導教育を推進する。 ・児童に応じたリライト教材や補助プリントを作成する。 ・JSL バンドスケール値に応じた日本語指導や授業づくりを進める。 ・初期適応指導方法の工夫改善に取り組む。 ・「いきいき教室（国際教室）」と在籍学級との学びの連携を進める。 **２　人権教育　特別支援教育** （１）職員研修の充実を図る。 ・多文化共生や人権教育に関する研修会を継続的に行う。 （２）日常的な人権学習を推進する。 ・実践行動につながる授業実践を推進する。 （３）多文化共生教育を推進する。 ・各教科等で年間を通して取り組み、まとめの場として「牧田万博」を開催する。 （４）特別支援教育を推進する。 ・特別支援ＣＯを中心とし、特別支援教育を組織的に推進する。 ・子ども理解に関する研修会を年１回以上行う。 ・支援会議やケース会議を随時開催し、支援方策を共有する。

	3　基本的生活習慣の確立　生活指導 （1）基本的生活習慣の定着を図る。 ・学校だよりや保健だよりでの啓発等、家庭と連携して生活習慣の改善に取り組む。 ・中学校の定期テスト期間に合わせ、スクリーンタイムの抑制と睡眠時間確保の取組を行う。 （2）「自分の身は自分で守る」安全教育を推進する。 ・火災･地震避難訓練、不審者対応訓練を定期的に実施する。 ・引渡し訓練や交通安全教室を実施する。 （3）いじめをなくす取組を徹底する。 ・アンケート調査や生活の様々な場での実態を把握し、職員間の情報共有を図り、未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ・インターネットモラルの向上に取り組む。 （4）不登校をうまない取組を推進する。 ・関係機関やＳＣ、ＳＳＷ、ＳＬＳと連携し、教育相談や不登校対策の充実を図る。 ・「ほっとルーム」を活用し、登校や学習参加への意欲付けを図る。 **4　保護者・地域との連携** （1）コミュニティ・スクールの活動を推進し、学びや安全安心のネットワークを充実させる。 ・地域ＣＯと連携を図り、学校支援ボランティア活動の充実を図る。 ・「にこにこ牧田っ子見守り隊」の活動を推進する。 ・牧田地区地域づくり協議会と連携し、郷土の偉人「前川定五郎翁」の生き方から思いやりや共助の大切さを学ぶ活動に取り組む。 （2）創徳中学校区で連携した教育活動を推進する。 ・校区夏季研修会や人権フォーラム、拡大学校運営協議会の充実を図る。 **5　非認知能力の育成** （1）すべての教育活動を通じて、「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」といった非認知能力の育成に努める。 ・つけたい力を明確にした特別活動を実施する。 （2）非認知能力の育成に係る研修を行う。 ・指導主事を招聘し、効果的な育成方法について研修する。 **6　働きやすい職場環境づくり** （1）勤務時間外在校時間を縮減する。 （月平均時間外在校等時間 27 時間以下　月 2 回定時退校率 100%） ・クロームブックの活用や事前提案等で会議の効率化を図る。 ・SSS との連携による校務の平準化を図る。 ・毎月２回「定時退校日」を設定し、定時退校を徹底する。 （2）学校組織力の向上を図り、風通しの良い職場づくりを進める。 ・“チーム牧田”をスローガンに全員で全児童の指導に当たる意識を高めていく。